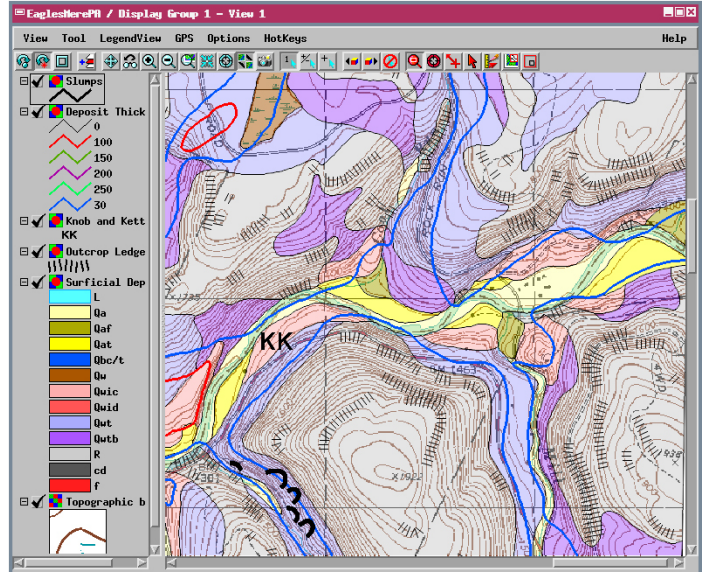


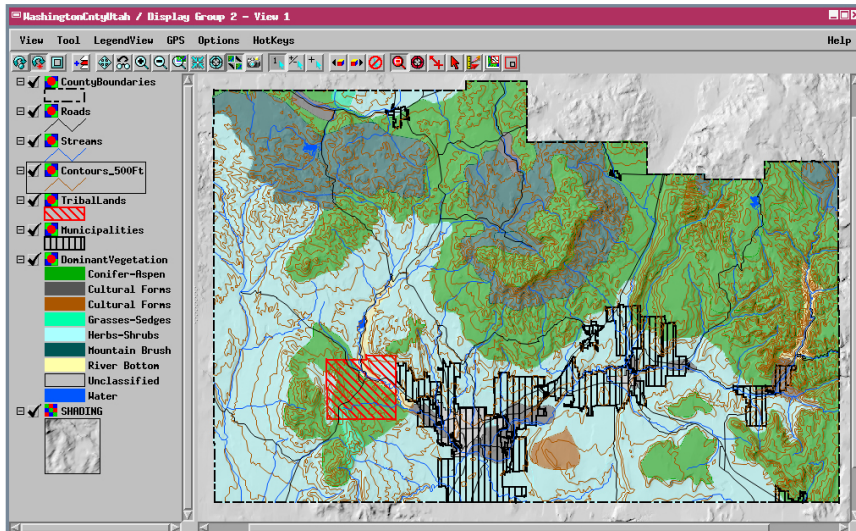
パーソナルジオデータベースのリンク

TNT 製品のインポート処理を使って、ArcGIS で作成したパーソナルジオデータベースから地理空間レイヤをインポートしたり、リンク設定してネイティブな形で（インポートしないで）レイヤを使用することができます。パーソナルジオデータベースは複数の地理空間的レイヤ（ESRI 社の用語では「フィーチャ・クラス」と呼びます）を Microsoft Access のファイルに格納します。パーソナルジオデータベースの中の各地理空間レイヤは、Access ファイルのテーブルとして格納されます。1つの空間テーブルには、1つのタイプの空間要素（ポリゴン、ラインまたはポイント）を含みます。例えば、地質図データのパーソナルジオデータベースには、岩体（ポリゴン）、岩体の境界（ライン）、断層（ライン）、露頭構造の測定点（ポイント）に対して別々に空間テーブルがあります。それぞれの空間テーブルは、1個の構成要素に対してテーブルの1列が対応します。テーブルの中の「シェイプ」の列には、各要素に対する空間情報がバイナリ形式で格納されています。他の列には各要素に対する属性が入っています。

インポートやリンクをするためにジオデータベースから任意のまたは全ての空間テーブルを選択できます。ジオデータベースの空間テーブルにリンクすることを選択すると、選択した各テーブルに対して、リンクされたシェイプオブジェクトがプロジェクトファイルの中に作られます。ジオリファレンスの情



この表示ウィンドウでは、各シェイプレイヤが1つのパーソナルジオデータベースファイルの中の別々のテーブルにリンクされています。このデータはペンシルベニア州、Eagles Mere 7.5 分区画表層地質図の数値データで、ペンシルベニア州自然資源保護局が発行したものです（地形図は別にリンクされた GeoTIFF ファイル）。各シェイプレイヤは一つの空間要素タイプ（ポリゴン、ラインまたはポイント）を含みます。この表示ウィンドウの例では全てのタイプが含まれています。シェイプレイヤのスタイルは TNTmips の表示処理で設定されており、ジオデータベースファイルの各地図レイヤのテーブルの属性値を使って設定されています。



この表示ウィンドウの各シェイプオブジェクトは、米国ユタ州のある郡の地図データに関するばらばらのパーソナルジオデータベースファイルにリンクしています。シェイプレイヤのスタイルは TNTmips の表示処理で設定されており、ジオデータベースファイルの各地図レイヤのテーブルの属性値を使って設定されています。これらのシェイプレイヤは、TNTmips の地形特性処理でデジタル標高モデルから計算した起伏陰影図ラスタの上に表示されています。

報は自動的に検出され、それぞれのシェイプオブジェクトに格納されず。表示もしくは処理の際、各シェイプオブジェクトはジオデータベースファイルの中の空間テーブルから直接、それぞれの要素に対する空間情報を読み込みます。リンクされた各シェイプオブジェクトは、TNTにおいては、それが含む要素タイプに対する1つまたは複数のリンクされた属性テーブルで表されます。これらのテーブルの中の属性値は、必要な時にアクセスファイルから直接読み込まれます。これらのリンクされた属性テーブルに基づいてデータティップやクエリによる選択、他の形式のスクリプトを使った表示スタイルの設定をすることができます（このページの例）。

リンクではなくインポートを選択した場合は、レイヤを独立したシェイプ、ベクタ、CAD オブジェクトとしてインポートすることができます。